

Glycine と Egg-albumin の 配合剤に関する研究

(第2報)

——急性毒性、亜急性毒性および慢性毒性試験——

根 本 伸 二 上 野 信 行

鈴 木 始 神 部 敏 夫*

橘 園 臣**

緒 言

胃、十二指腸潰瘍の治療に用いられている非特異的蛋白刺激療法剤「ユモール®」注は、Egg-albumin (以後 EA と略) と Glycine (以後 G と略) の配合剤 (以後 G+EA と略) であり、その配合は 1ml 中に G 15mg, EA 0.001 mg の割合である。著者らは G+EA に抗潰瘍作用があり、特に幽門部結紮法 (Shay ら 1945¹⁾)、Prednisolon 潰瘍 (Robert ら 1958²⁾)、酢酸潰瘍 (Takagi ら 1969³⁾)、焼灼潰瘍 (Shoryna ら 1958⁴⁾) の実験潰瘍に対し、予防的効果および治癒的効果をみた。(応用薬理投稿中⁵⁾)

今回、著者らは G, EA および G+EA のマウス、ラットにおける急性毒性、ラットにおける亜急性および慢性毒性について検討したので報告する。

実験材料および方法

1. 試料

Glycine は岩井化学薬品(株)の試薬持級を使用し、Egg-albumin は東京生化学工業(株)の3回再結のものを使用した。

2. 試料の調製

1) 急性毒性

被検薬は、生理食塩液に溶解して用いた。なお、G と EA を同時投与する時は G と EA の配合比を「ユモール®」注の配合比と同じにした。

2) 亜急性毒性

被検薬は、生理食塩液に溶解し、投与液量が各群ともに 2ml/100g になるように濃度を調製した。

3) 慢性毒性

被検薬は、生理食塩液に溶解し、投与液量が各群ともに 0.4ml/100g になるように濃度を調製した。

3. 実験動物および飼育条件

急性毒性には、マウス(dd 系 5 週齢) およびラット (Wistar 系 7 週齢) の雄雌を用い、悪急性毒性には、ラット雄雌 (Wistar 系 7 週齢) を、

* 東京都中野区鷺宮 3 丁目 13 番 6 号 (〒 165)

三亜薬品工業(株)学術開発部

** 埼玉県草加市稻荷町 1805 (〒 340)

日水製薬(株)開発研究部